

愛媛県立松山北高等学校
第80回 入学式

式 辞

心地よい春のやわらかな風を全身で感じる事ができる今日の佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和8年度の入学式を挙行できますことは、生徒並びに教職員一同、大きな喜びであり、心よりお礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました362名の皆さん、入学おめでとうございます。希望と期待を胸に抱き、はつらつとした皆さんを本校に迎えることができたことを、とても嬉しく思います。同時に、皆さんに、無償の愛を注ぎ、支え、励ましながら、この日を待ち望んで来られました保護者の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。お子様が自立への道を着実に踏み出すことができるよう、教職員一同、精一杯力を注いでまいりますので、本校の教育活動に対しまして、一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

松山北高校は、明治33年に設立され、今年で126年目を迎える県内屈指の伝統校です。卒業生は4万人を超え、県内はもとより全国各地の様々な分野で活躍し大きな功績を残されております。また、小説「坂の上の雲」で有名な秋山兄弟の兄であり、日露戦争の勝利に大きく貢献した偉人の秋山好古陸軍大將が、退役後に故郷の松山に戻り、本校の前身北予中学校の第4代校長を務められています。

こうした諸先輩の皆様方の活躍や本校の歴史を紐解く度に、私も身が引き締まる思いがいたします。どうぞ、皆さんも伝統と風格を備えた本校で学べることに誇りを持ってほしいと思います。

さて、高校生活がスタートする皆さんは、今の気持ちは大きな夢や期待、楽しみ、そして少しの不安もあるでしょう。そうした皆さんに、今日から松山北高校生として、自覚と自らの可能性を伸ばすために心に留めてほしいことを2つお話しします。

まず1つ目は、生涯にわたって社会貢献できる人になるために、本校の校訓であります「文・武・心（こころ）」を、いつも意識し、その土台づくりをしてほしいということです。

先ほど紹介した秋山好古先生を始め、偉大な先達の教えが脈々と受け継がれる本校において、長く継承されてきた校風は、「質実剛健」と「清楚」です。そこから、「文・武・心」という校訓に繋がっていきます。この3文字に込められた意味は、学業と部活動の両方において、高い目標を掲げ、時間を効率的に使って高い成果を目指す「文武両道」という二つの道に、学校行事やボランティア活動などを通じて養う「心の成長」という、もう一つの道を加えて、「文・武・心」の三道三立を目指すことにあります。皆さんには、この校訓のもと、本校での学校生活を通じて、高い知性と豊かな人間性を備えた調和の取れた人間に成長することを目指して、日々努力を積み重ねてほしいと期待しています。

2つ目は、前向きな失敗をどんどんしてほしいということです。

皆さんは、今日から新たな環境で高校生活という未知の体験をしていくこととなりますが、初めからすべて上手くいくと思う必要はありません。むしろ、始めから上手くいなくて当然と思ってもらって大丈夫です。そこで「トライ＆エラー＆ラーン」という考え方を紹介します。日本語に訳すと「挑戦と失敗と学び」となります。これは、まずは失敗を恐れず思い切って挑戦し、もし上手くいかなかったとしたら、それを単なる失敗に終わらせず、なぜ失敗したのか、どうすれば良くなるかという学びを得て、改善を加えることで、次の成功に繋げるというプロセスのことです。心身ともに成長の途中にある若い皆さんにとって失敗は特権です。失敗は終わりではなく、次の成功に向けた貴重なデータが得られたと前向きに捉えて「トライ＆エラー＆ラーン」を繰り返してください。きっと皆さんの着実な成長に繋がることと思います。

最後に、少し自分の話に触れさせてもらいますが、実は私も42年前に、今日の皆さんと同じように、この体育館で入学式を迎えた本校の卒業生です。文武両道と質実剛健という校風に憧れて入学し、南に松山城を望み、周囲を大学で囲まれた、伝統と風格のある環境のもと高校3年間を過ごし、卒業後もずっと母校を誇りに思って生

きてきました。その理由は、今もなお、ハイレベルな文武両道を体現する県下屈指の高い倍率を維持する人気校であり続けているからだと思います。これは、これまで本校に在籍してこられた歴代の生徒や教職員の皆様が不断の努力を積み重ねて伝統を大事に守り続けてくれたお陰だと感謝しなければなりません。私は皆さんにも、生涯を通じて母校を誇りに感じながら人生を歩んでいってほしいと願っています。そのために、今日から、既に本校の伝統をしっかりと受け継いでいる2・3年生の先輩たちと、そして、生徒思いの素晴らしい先生方と一緒に、新たな松山北高校の歴史をつくっていきましょう。

それでは新入生の皆さんが、本日の初心を忘れることなく、充実した高校生活を送られますことを、心から願いまして、式辞といたします。

令和8年4月8日

愛媛県立松山北高等学校長 辻岡 英幸